

「みなす」に対応するスペイン語の構文について

下 田 幸 男

要 旨

本論は、日本語の「みなす」に対応するスペイン語の構文をコーパスを使って実証的に分析するのが目的である。本論で扱う構文は *tomar por*, *tener por*, *pasar por*, *dar por*, *considerar como*, *ver*, *crear* の7構文である。「みなす」に相当するスペイン語の構文は英語のように多様で、使用に関しては英語よりも複雑であるにもかかわらず、まとまった研究はこれまでなされてこなかった。スペイン語のコーパスを使って実例を示しながら、それぞれの構文を詳細に記述している研究である。意味的にそれぞれの構文にどんな前置詞が使われるかにも焦点を当てている。

キーワード：スペイン語、みなす、構文、コーパス、前置詞

0. はじめに

本研究は、日本語の「みなす」に相当するスペイン語のさまざまな表現を実用面、運用面から分析し、それぞれの使われ方の違いを実例を用いて提示することが目的である。日本語の「みなす」に対応するスペイン語の表現は英語と同様にさまざまあり、使われ方は英語以上に複雑であるにもかかわらず、これまで包括的かつ詳細に分析した研究はなかった。当然ながら和辞典では十分な記述はされておらず、例文の数も限られているため実用面からも不十分である。本論では、実用面に焦点を当て「みなす」に相当する構文の詳細な記述をコーパスからの実例を示しながらおこなっていく。

本論が扱う「みなす」に相当するスペイン語の構文は以下のような構造となっている¹⁾。

動詞 (verbo) + 直接目的語 (complemento directo) + (前置詞 *por*, *como*)²⁾
+ 補語 (complemento predicativo)

スペイン語の語順は英語の (SVOC) とは異なり上記の語順になっていないことがままあるが、上記の構成素をすべて満たしているものが本論の対象となる。

実例の収集にはスペイン王立アカデミーの現代語コーパス CREA、通時的コーパス CORDE と Mark Davies のスペイン語コーパス Corpus de Español を用いた。CREA は1975年から2004年まで、CORDE は13世紀から1974年までのさまざまな活字メディアや口語表現などを集めたスペイン語では最も規模の大きな言語データベースである。Mark Davies のコーパスには12

世紀から 20 世紀までの 1 億語以上のデータが集積されている³⁾。

次章では既存の代表的な和西辞典が「みなす」をどのように扱っているか確認する。

1. 和西辞典と高橋覚二

和西辞典として参照したのは以下の 3 冊である。

- ①『和西辞典 (改訂版)』白水社
- ②『クラウン和西辞典』三省堂
- ③『小学館和西辞典』小学館

はじめに、①白水社の『和西辞典』から見ていこう。この 3 冊の中では「みなす」を最も詳細に扱っている。この辞書で優れている点はどんな品詞を取るかを記述しているところにある。

- **considerar (juzgar)** A como B.
- **tener a uno** por *adj.*
- **conceptuar a uno** [como] + *adj·n.*
- **ser considerado (da)** como + *adj·n.* (みなされる)
- **pasar por** + *adj·n.*

例文：**Se considera** como ausente al que no responde. 返事のないものは欠席とみなす。

次に、②三省堂の『クラウン和西辞書』を見ていこう。これは対応する表現の数が少なく、使われる品詞も扱っていない。表記法の統一性もなく少しわかりにくい。

- **tomar** (por).
- **considerar** (como).
- **juzgar** (a) A como B.
- **creer** que A es B.

例文：**considerarlo** [le] como un héroe. 彼を英雄とみなす。Está **considerado** apto para ese trabajo. 彼はその仕事に適任だとみなされている。

最後に、③『小学館和西辞書』を見てみよう。日本語訳はついているものの、例文が 3 文並んでいるだけでどのように使うかの説明はまったくない。

例文：**considerar** Plutón como un planeta enano 冥王星を小惑星とみなす。**considerar** nulo el contrato その契約を無効とみなす。**dar** por aprobado el proyecto de ley その法案を承認する。

和西辞典以外では高橋覚二『スペイン表現ハンドブック』白水社 (URL も参照 <http://www.>

ic.nanzan-u.ac.jp/~ktaka/main/hyogen.htm) に「……としてうつる」という項目があり、「前置詞の後には無限定の名詞や形容詞がくる」という記述がある。以下3つのスペイン語表現に対応している。

- **pasar por** ……として通る, みなされる
- **tomar por** ……とみなす
- **tener por** ……とみなす

例文：Luis **pasa por** cobarde. ルイスは臆病とみなされている。Si se pone corbata negra le **toman por** un cura vestido de paisano. 彼が黒いネクタイをすると私服を着た司祭のように見える。

当然ではあるが、和西辞典には「みなす」に意味的に対応する構文だけが取り上げられており、その使い分けまでは記述されていない。これでは、一般の学習は自分が表現しようとしている「みなす」がどの表現に対応するのか判断することはできない。もちろん、教える側にも十分な判断材料が提供されているとは言えない。

2. 「として」を意味する **por** と **como**

「みなす」に対応するスペイン語の構文の多くは補語となる名詞の前に前置詞 **por** と **como** を取る。『西和中辞典』（小学館）では **por** の項目に「[資格・相当] ……として」とあり、例文として「みなす」を意味する **pasar por** と **tomar por** を挙げている。

- (1) **Pasa por** trabajador pero es perezoso. 彼は働き者と思われているが怠け者だ。
- (2) Lo **tomaron por** jefe. 彼は上司と間違えられた。

上記二つの文の **por** を **como** に替えることはできない。

- (1') * **Pasa como** trabajador pero es perezoso.
- (2') * Lo **tomaron como** jefe.⁴⁾

como も『西和中辞典』では「[主に無冠詞名詞の前で前置詞的に] [資格] ……として」とあり、ほぼ上記の **por** と同じ記述内容なのだが、**considerar** の場合も **como** を **por** に替えることができない。

- (3) * **Se considera por** ausente al que no responde. 返事のないものは欠席とみなす。
- (4) * **Se considera** Plutón **por** un planeta enano. 冥王星を小惑星とみなす。

つまり、por と como はどちらも「として」を意味し、資格などを表す点でもほぼ同じなのだが、それぞれの動詞の低位範疇にはほぼ決まった前置詞が使われるようである。これは動詞の意味的特性によるものなのか、動詞句の独自性 (idiosincrasia) によるのかは後の各項目で検証し、4章で包括的な説明を試みる。

3. 「みなす」に対応するスペイン語の構文

この章では、日本語の「みなす」に対応するスペイン語の構文をいくつか取り上げ、それらを詳細に記述していく。記述していく過程でそれぞれの構文間の違いについて言及し、学習者が構文使用の際に適切な語彙選択が可能になるよう実用面、運用面での配慮をしていく。

はじめに、前置詞 por を伴った構文を取り上げ、その後、como を伴ったものを取り上げる。少なくとも第2章で見た「みなす」に対応するスペイン語の構文は、付随する「～として」を意味する por と como の交替ができない。辞書の意味以外の違いがあるのかどうかを見極めるためにもこの二つを分けて分析する必要がある。

3.1. tomar por + 名詞・形容詞：「人を～とみなす、～と間違える」

以下、記述対象の構文は以下の代表的なスペイン語の辞書によって意味を定義していく。

- *Diccionario de la lengua española* (2014) (以下 DRAE)
- *Gran diccionario de la lengua española* (2012) (以下 GDLE)
- *Diccionario SALAMANCA de la lengua española* (1996) (以下 SALA)

では、はじめに tomar por の辞書による意味の記述から見てみよう⁵⁾。

DRAE: “considerar equivocadamente a alguien o algo como lo que no es”

「人や事柄を間違ってそうではないとみなすこと」

例文：Tomar a alguien por ladrón. ある人を泥棒とみなす。

GDLE: “tener una persona un juicio o una opinión equivocados sobre una persona o una cosa”

「人が誤った判断や意見を人や事柄に持つこと」

例文：Lo han tomado por ladrón. 彼は泥棒と間違えられた。

SALA: “considerar una persona a otra persona de una manera determinada”

「ある人が他の人がある特定の見方で判断すること」

例文：Lo toman por tonto. 彼はバカだと思われている。

DRAE と GDLE には equivocado (誤った) という語が使われており、人や物事に間違った判断

や意見を持つという意味記述になっている。SALAにはそういった記述はなく「特定の見方 (una manera determinada)」という記述になっているが、例文を見ると判断の誤りではないかと思われるものが使われている (Lo toman por tonto. 彼はバカだと思われている。)

コーパスで収集した補語となる名詞・形容詞は以下のようになった。

alemán (ドイツ人)	extranjero (外国人)	modelo (モデル)
amante (愛人)	familia (家族)	mudo (口がきけない人)
animal (動物)	funcionario (公務員)	novios (恋人たち)
bruto (粗野な人)	granjero (農民)	policía (警察官)
bueno (良い人)	hermano (兄弟)	sueca (スイス人)
camarero (ウェイター)	héroe (英雄)	una pelota de fútbol (サッカーボール)
chiflado (頭のおかしな人)	idiota (まぬけ)	universitario (大学生)
compañero (仲間)	imbécil (愚か者)	etc.
dependiente (店員)	japonés (日本人)	
duende (妖精)	loco (狂人)	
esposa (妻)	matrimonio (夫婦)	

主に人の職業や属性などを表す名詞・形容詞が圧倒的に多いのがわかる。修飾句がつかない名詞単体での使用がほとんどで、その多くは無冠詞である。では、これらの名詞・形容詞が使われているいくつかの実例を見てみよう。

- (5) Al cabo de un año, había gente que *me tomaba por aragonés o por navarro*.

一年後には、私のことをアラゴン人かナバーラ人と間違える人がいた。

Conget, José María (1989) *Todas las mujeres*, España.

- (6) Es decir, que *nos toman por funcionarios*.

つまり、彼らは私たちを(間違って)公務員だと思っている。

Miguel, Armando de (1994) *La perversión del lenguaje*, España.

- (7) Yo temo que el olvido relativo de Palmoroli en el nomenclátor callejero se daba a que *se le toma por extranjero*.

人々の記憶から Palmoroli が忘れられているのは、彼が外国人であるとみなされているからではないだろうか (実際はスペイン人)。

ABC Cultural, 19/07/1996: “El más romántico centenario de Vicente Palmaroli.”, España

(8) Gabrielle y ella se parecían extraordinariamente, y todo el mundo *las tomaba por hermanas*.

Gabrielle と彼女はとてもよく似ていたの、みんな彼女たちを姉妹だと思っていた。

Urrea, Inmaculada (1997) *Coco Chanel. La revolución de un estilo*, España.

(5)～(8) の実例を見ると、そのすべてが誤った判断であることがわかる。そのため、コーパスでも確認した通り、*tomar por* を使って「みなす」を表現するときには、主語の人によって動詞 *tomar* の目的語となる人や事物が実際とは異なる属性や特徴を持つと誤って判断される場合に限られる、と定義することができるだろう。文法的には、身分や職業などの属性を表すだけの、修飾句のない名詞・形容詞が使われているため、そのほとんどが無冠詞となっている。

3.2. *pasar por* + 名詞・形容詞「～として通る、みなされる」

pasar por は「はじめに」で定義した構文とは構造が異なる。他動詞ではなく、直接目的語と補語をとる構造にはなっていない。*pasar* は自動詞であってその基本的概念は「通る」である。「～として」を意味する *por* と組み合わせることで「～として通る」、「～とみなされる、～として知られている」という意味になる。では、実際に前節で見た *tomar por* とその構造以外でどのような違いがあるのだろうか。まずは、辞書の定義から見てみよう。

DRAE: “*ser tenido en determinado concepto u opinión*”

「特定の見方や意見を持たれること」

例文: *Pasar por discreto, por tonto*. 謙虚, バカだと思われる。

GDLE: “*ser considerada una persona de cierta manera*”

「ある見方で人が判断されること」

例文: *Mi prima pasa por lista*. 私のいとこは賢いと思われている。

SALA: “*ser considerada una persona de una manera determinada*”

「ある特定の見方で人が判断されること」

例文: *El chico pasa por ser el genio de la familia*. その男の子は家族の中で天才になると思われている。⁶⁾

辞書の定義だけを見ると *tomar por* にあった「間違ってみなされる」という意味合いは *pasar por* にはないようである。実際には上記以外のスペイン語の辞書も参照したのだが、やはり「間違っ」て」という定義が記載されたものはなかった⁷⁾。

コーパスで実例を観察すると、*tomar por* とは異なる種類の名詞・形容詞が収集できた。以下がその結果である。*tomar por* とは異なり、事物の属性を表すものも多く、人と事物を分けた。

人：

ama de casa (主婦)	intelectual (知識人)	pareja ociosa (暇なカップル)
hombre atractivo (魅力的な男性)	joven (若者)	tonto (バカ)
idiota (愚か者)	monja boba (愚かな修道女)	viejo loco (狂った老人)

etc.

事物：

asunto serio (深刻な事態)	tema fundamental (基本的テーマ)
modelo de sociedad (社会モデル)	tema geopolítico (地政学的テーマ)
partido de izquierda (左派政党)	etc.

前節で見た *tomar por* は主に人の属性を表す名詞・形容詞が多く、名詞・形容詞単体の単純なものが多かったが、一方で *pasar por* は名詞+形容詞の名詞句が多く、そのため不定冠詞が付いたものが多い。事物に関しても単純な単体の名詞ではなく、使われる文脈は社会的、政治的な場面が多い。もちろん、*idiota*, *tonto* のように単純に主語の特徴を表すものもあるが、全体的には *tomar por* とはかなり異なった名詞句が使われている。

- (9) Si no fuera por esos lentes –pensó Alicia–, podría *pasar por un hombre atractivo*.

もし眼鏡をしていなければ、と Alicia は思った、彼は魅力的な男性だと思われるだろう。

Luca de Tena, Torcuato (1979) *Los renglones torcidos de Dios*, España.

- (10) Como era de esperar, tu secuestro *pasó por un asunto serio*, tus colegas y la embajada de Francia se movilizaron, ...

思った通り、君の誘拐事件は深刻な事態であるとされ、君の同僚やフランス大使館が奔走し、……

Torres, Maruja (2004) *Hombres de lluvia*, España.

- (11) No quiere pelea y hasta prefiere *pasar por un cobarde* a los ojos de Mary Kate.

彼は争いが嫌いで、Mary Kate の目には臆病であると思われるよとさえしている。

El País, 08/05/1997, España.

- (12) Puede ser que el Centro lleve una política de izquierda, como ha dicho, pero va a ser muy difícil que *pase por un partido de izquierdas*. Yo, por lo menos, no lo creo.

その本部は、自らが言っている通り、左翼政治を行ってきたかもしれない。しかし、左翼政党として通るのは難しいだろう。少なくとも私はそう思っていない。

Triunfo, 09/07/1977: “Con estas tensiones y estos calores”, España.

(11) では *cobarde* (臆病者) という修飾句のつかない名詞が使われているが、不定冠詞の *un* が付くことでその意味合いを強調している。目的語の属性を単体の名詞で単純に表す *tomar por* にはなかった用法である。*tomar por* が持っていた「間違ってみなす」という意味合いに関しては、*pasar por* では語彙的意味としてそれが含まれているというのではなく、文脈からそのような解釈もあるうるといった語用論的な解釈になっているようである。

3.3. *tener por* + 名詞・形容詞・過去分詞「こと・もの・人を〜だとする」

tener por はこれまでの *tomar por*, *pasar por* とは異なった特徴を持つ。まずは、各辞書の定義から確認する。

DRAE: “*juzgar, reputar, considerar*”

「判断する, 評価する, みなす」

例文: *Tener alguien por rico*. 誰かを裕福だとみなす。

GDLE: “*considerar a una persona de forma determinada*”

「特定の見方で人を判断する」

例文: *Le tengo por un irresponsable*. 私は彼を無責任な人だとみなす。

SALA: “*considerar una persona a otra persona de una manera determinada*”

「ある人が他の人のある特定の見方で判断する」

例文: *Ellos me tienen por una gran profesional*. 彼らは私を偉大なプロとみなしている。

辞書の記述だけを見ると、*tomar por*, *pasar por* とほとんど違いがない。使われる用例もこれまで見た *tomar por*, *pasar por* と何ら違いがない。しかし、コーパスで使われている実例を採取すると、その違いが明確になる。*tener por* で使われる語がこれまで見た二つの構文とはかなり異なるのである。便宜上、名詞、形容詞、過去分詞の三種類に分けて提示する。

名詞:

<i>amigo</i> (友人)	<i>eje</i> (軸)	<i>norma</i> (ノルマ)
<i>centro</i> (中心)	<i>escenario</i> (舞台)	<i>objeto</i> (目的)
<i>compañero</i> (仲間)	<i>esclavo</i> (奴隷)	<i>objetivo</i> (目的)
<i>costumbre</i> (習慣)	<i>fin</i> (目的)	<i>principio</i> (原則)
<i>derecho</i> (権利)	<i>finalidad</i> (目的)	<i>propósito</i> (目的)
<i>destino</i> (運命)	<i>meta</i> (目的)	<i>protagonista</i> (主役)
<i>efecto</i> (効果)	<i>misión</i> (使命)	etc.

形容詞：

cierto (確かな)	elemental (基本的な)	seguro (確かな)
conveniente (好都合な)	fundamental (基礎的な)	sospechoso (疑わしい)
correcto (正しい)	indispensable (必要不可欠な)	urgente (緊急の)
eficaz (効果的な)	peligroso (危険な)	etc.

過去分詞：

cumplido (達成した)	logrado (達成した)	respetado (尊敬された)
destinado (向けられた)	preparado (準備された)	superado (乗り越えた)
ejecutado (実行された)	presentado (発表された)	etc.
enamorado (恋をした)	recibido (受け入れられた)	

使われている名詞を見ていくと、「目的」「習慣」「使命」「原則」「権利」など、規範や原理原則、目的などが多い。形容詞も同様に「確かな」「都合がよい」「基本的な」のように価値判断などの語彙が用いられており、前述の tomar por, pasar por のような人の属性を表す形容詞はあまり使われない。同様に、過去分詞も目的の達成を表すものが多く、過去分詞が使われている点も含め、前述の二つの構文とは異なる特徴を示している。では、例文を見てみよう。

- (13) César Hildebrandt ha asumido la jefatura de la oposición y *tiene por norma* criticar a quienes no están de acuerdo con sus conceptos.

César Hildebrandt は反対派のリーダーとなり、彼の考えに賛成しない人を批判することをノルマとしている。

Expreso, 28/07/1997: “Congresista José Barba”, Perú.

- (14) La manifestación *tuvo por escenario* la casi totalidad del casco urbano de esta localidad vizcaína.

デモ行進はこのビスカヤ市の都市部ほぼすべてをステージとした。

El país, 01/08/1976: Manifestación popular y conmoración prohibida, España.

- (15) Un 76% de los rusos y un 75% de los franceses cree que el uso de la fuerza en Irak por parte de EEUU *tiene por objeto* apoderarse de su petróleo.

76% のロシア人と 75% のフランス人は、イラクにおける軍事力の行使はアメリカにとってイラクの石油を奪い取ることが目的であると思っている。

Revista Nacional, 03/2003: “Crece el descontento hacia Estados Unidos”, España.

- (16) Si yo no gano, *ten por seguro* que no va a ser culpa mía, sino simplemente la decisión de los jueces.

もし私が勝てなくても、それは私の責任ではなく、単に裁判官の判決であると思ってください。

Wornat, Olga (2001) *Menem-Bolocco, S.A.*, Argentina.

上記の実例で使われている *norma*, *escenario*, *objeto* は現代語コーパス CREA で最も多く採取できた名詞である。形容詞、過去分詞は名詞と比較すると使われる頻度は少なく、先ほど見た辞書の例文で使われたような例（人の属性を表すような）は、コーパスではほとんど確認できなかった。

さらに、*tener por* は *por* の代わりに *como* も使うことができる。上記の (13)～(15) で使われている *norma*, *escenario*, *objeto* が *como* と共起している実例 (17)～(19) を確認してみよう。

- (17) Aunque nosotros sabemos que esto es lo que casi siempre ocurre, *tenemos como norma* ayudar artificialmente al animal.

私たちはこれが（麻酔が効いている時間が短いことが）ほとんどいつも起こることであると知ってはいるが、私たちは人為的に動物を助けることをノルマとしている。

López, Manuel (2001) *Un gorila con pañeras. Historias de un veterinario entre monos*, España.

- (18) El lamentable accidente *tuvo como escenario* la calle Ecuador.

その残念な事件はエクアドル通りを舞台とした。

La Nueva Provincia, 15/12/1997: “Luctuoso accidente en Villa Delfina”, Argentina.

- (19) Este proyecto *tiene como objeto* hacer un aporte en el desarrollo de la reforma judicial.

この計画は司法改革の発展に寄与することを目的としている。

El Universal, 27/10/1996: “Presentarán proyecto de ley sobre reforma judicial”, Venezuela.

ここで問題となるのは、*por* と *como* で何らかの違いが出るのかどうかという点だ。現代語のコーパス CREA で検索した結果、上記の実例で使われている *norma*, *escenario*, *objeto* は、*por* でも *como* でも高い頻度で様々なコンテキストで使われていた⁸⁾。上記の例文 (13)～(15) と (17)～(19) を比較してみても、構文としての大きな意味の違いは確認できなかった。実際、上記の実例で *por* と *como* を交替した文を母語話者2名（スペイン人1名とメキシコ人1名）に確認してもらったところ、どの文も文法的、意味的に問題がないとの判断であった。以上のように、*tener por (como)* は、*por* と *como* の交替可能性という点でも *tomar por*, *pasar por* とは異なることがわかった。

3.4. dar por + 過去分詞・形容詞

dar por はその下位範疇に過去分詞と形容詞しかとらないという点で、これまで見た三つの構文とは異なる特徴を示す。辞書の意味記述を確認してみよう。

DRAE: “suponer, declarar, considerar”

「推察する, 宣言する, みなす」

例文: Lo doy por visto, por inocente. 私は彼を見たことがある, 無実だとみなす。

GDLE: “considerar o declarar a una persona o una cosa en una condición o estado”

「人やモノをある状態であるとみなす, 宣言する」

例文: El jurado dio por inocente al acusado. 判事は被告に無実を宣告した。

SALA: “considerar una persona o una cosa de cierta manera”

「人やモノをある見方で判断する」

例文: Doy este asunto por terminado. 私はこの事件が終わったものとする。

辞書の意味記述に関して、これまで見てきた構文とは異なる「宣言する」「見解を述べる」のような意味が加わっている。コーパスで実例を見ると、過去分詞が圧倒的に多いためGDLEの定義に近い表現が数多く採取できた。以下、構文で使われた過去分詞と形容詞を提示する。

過去分詞:

acabado (終えた)	cumplido (達成した)	muerto (死んだ)
agotado (売り切れた)	desaparecido (消えた)	perdido (失った)
aludido (ほのめかした)	entendido (理解した)	recibido (受け取った)
aprobado (承認された)	enterado (知った)	resuelto (解決した)
cancelado (取り消された)	finalizado (終えた)	satisfecho (満足した)
cerrado (閉じた)	garantizado (保障された)	superado (勝った)
concluido (決着した)	inaugurado (出発した)	terminado (終えた)
condenado (罰せられた)	jubilado (リタイアした)	vencido (負けた)
		zanjado (決着した), etc.

形容詞:

bueno (良い)	imposible (不可能な)	válido (有効な)
cierto (確かな)	inevitable (避けられない)	etc.
contento (満足した)	seguro (確かな)	

過去分詞は、ある行為が達成（完了）し、その行為の結果が継続している状態の動詞、つまり、その多くが完了相（*terminativo*）、結果相（*resultativo*）の動詞である（Gómez Torrego 1988: 195, Yllera 1999: 3438, García Fernández 2006: 109）。そのため、状態相（*estado*）の動詞や行為の結果が継続しない動作動詞（*actividad*）は容認されない。

(20) * *Damos por acostumbrada la vida japonesa.* 私たちは日本の生活に慣れた。

(21) * *Se da por cansada.* 彼女は疲れた（自分疲れた状態だとみなす）。

(22) * *Dio por comido el plato.* その料理食べたものとした。

(23) * *Dio por bebido el vino.* そのワインを飲んだものとした。

acostumbrada（慣れた）、*cansada*（疲れた）は *estar* と共に状態相を表し、*comido*（食べる）、*bebido*（飲む）は動作動詞の過去分詞形である。

では実例を確認しよう。以下の実例で使われている過去分詞は *finalizada*（終えた）、*terminado*（終えた）、*perdido*（失った）、*muerto*（死んだ）、どれも完了相を持った動詞である。一方で、形容詞が使われた構文は事物の評価を表している。

(24) *Después de muchas horas de laboriosa búsqueda, en la tarde del miércoles decidieron dar por finalizada la pesquisa.*

何時間もの大がかりな捜査の後、水曜日の午後、その捜査は終了したものとした。

La voz de Galicia, 15/01/2004: “Galicia”, España.

(25) *Y los diligentes nacionales tuvieron que dar por terminado el paro que afectó a la mayoría de los puertos británicos.*

国内の指導者たちは、イギリスの港湾地区の多くに影響を与えているストライキは終わっていると宣言しなければならなかった。

Revista Hoy, 25-31/07/1984: “Gran Bretaña”, España.

(26) *Esta incomunicación llegó a ser a veces tan profunda que se los dio por perdidos o por muertos.*

この音信不通があまりにもひどかったので、彼らが行方不明になってしまったか死んでしまったと思われていた。

Clarín, 17/10/2000: “Tribuna abierta”, Argentina.

(27) *Y en torno a la crítica y las opiniones, doy por bueno el consejo que la semana pasada me ofrecía el escritor Juan Cruz.*

批判や意見に関して、先週作家の Juan Cruz が私にしてくれたアドバイスは良いと思っている。

El Mundo, 21/09/1996: “ISMAEL GRASA: EL PRIMER PASO”, España.

では、dar por は como と交替可能なのだろうか。前述の通り tomar por, pasar por は交替不可能で、tener por は交替が可能であった。以下の例文は上記の実例の por を como に替えたものである。

(24') * Decidieron dar como finalizada la pesquisa.

(25') * Tuvieron que dar como terminado el paro.

(26') * Se los dio como perdidos o por muertos

(27') Doy como bueno el consejo.

dar por は補語に過去分詞を伴った場合 como との交替はできないようである。インフォーマントに意見を求めると、上記の (24')～(27') の例文は、解釈は可能なのだが、como を使った実例は聞いたことがないという反応であった。実際、コーパスや一般の検索エンジンでもヒットすることはなかった。一方で、価値判断などを表す bueno (良い), seguro (確かな), válido (有効な, 優秀な) などは como と共起可能である (27'), (28)。

(28) El propio director *ha dado como válido* el siguiente listado.

その映画監督自身 (Pedro Almodóvar), 以下の (映画の) リストを優秀なものとしてみなしていた。

López Navarro (1996) *Clásicos del cine*, Chile.

前節の tener を使った構文は、規範や原理原則、目的など意味する補語が多く使われており、それを導く前置詞は por も como も可能であった。同様に、dar の場合も価値基準のようなモノの見方を表す形容詞が使われると como が (数は少ないながら) 前置詞として用いられる。

3.5. considerar, juzgar (como) + 形容詞・名詞

ここからは como を使った例を見ていこう。considerar は日本人学習者が日本語の「みなす」に対応する表現として最も使う構文であろう。これまで見てきた構文と considerar はどのような違いがあるのだろうか。まずは、各辞書の定義から見てみよう⁹⁾。

DRAE: “pensar o creer, basándose en algún dato que alguien o algo es como se expresa”

「何らかの証拠に基づき, 人やモノが表現されているように思ったり, 考えたりすること」

例文: Consideran prioritarias las reformas económicas. 経済改革が優先的であるとみなされている。

GDLE: “atribuir una cualidad a una persona o cosa”

「人やモノに、ある性質があるとする事」

例文：Se considera incapacitado para la tarea. その課題に対して彼は無能だと見なされている。

SALA: “atribuir una persona una cualidad o una circunstancia a otra persona o una cosa”

「ある人が他の人やモノに、ある性質や状況があるとする事」

例文：Siempre he considerado necesario a Roberto. 私はずっとロベルトを必要としてきた。

ここで注目すべきは、DRAEの basándose en algún dato (何らかの根拠、証拠に基づき) という点だ。これまでに見た構文にはこのような意味解釈はなかった。なぜDRAEはこのような意味解釈をしたのだろうか。「みなす」といっても、これまで見てきたようにさまざまな解釈が可能である。tomar por であれば「間違っただ」という意味が含まれるし、tener por であれば基準や価値判断などであった。dar por はある行為が完了していることや人や事物の評価などを表している。considerar において、誰の視点からの根拠、証拠なのかは語用論的な判断になるが(話者か、主語か、一般常識か)、人や事物をどのように「みなす」かは比較的確実でより客観的なデータによる裏付けがあって成立することを示しているのではない。

では、実際にどのような形容詞が補語として使われるのか、コーパスから採取したデータを確認してみよう。

形容詞：

acceptable (受け入れ可能な)	excluyente (排他的な)	peligroso (危険な)
adecuado (適した)	exigente (要求の多い)	perfecto (完璧な)
brillante (輝かしい)	importante (重要な)	prudente (慎重な)
conveniente (便利な)	interesante, (興味深い)	suficiente (十分な)
culpable (責任のある)	necesario (必要な)	vulnerable (弱い, もろい)
esencial (不可欠の)	oportuno (都合がよい)	etc.

名詞：

el fundador (創設者)	el (la) primer(a) (一番～)	una persona (人)
el (la) mejor (最も素晴らしい)	la posibilidad (可能性)	etc.
el (la) más (最も～な)	uno (una) de + más (最も～の一つ)	

形容詞が多く、意味的には価値判断を表すものが圧倒的である。considerar は補語が名詞の場合、「一番の～」「第一人者の～」のように最上級が使われることが非常に多く、目的語の

存在価値を補語によって取り立て際立たせるような例が多くみられる。補語の前置詞として *como* が使われることが多く、*Diccionario panhispánico de dudas* によると、*como* の使用は *aproximativo* (概算的)、*atenuativo* (緩衝的) 効力があるとの記述があり、補語の強調を少し緩和するような機能が *como* にはある。では、実例を見ていこう。

- (29) También el presidente de Genetalitat, cuando *lo considera oportuno*, coincide con el PP y a veces, en otros temas no estrictamente lingüísticos, incluso llega a acuerdos.

Genetalitat の党首もそれを好都合であるとみなし、PP と同じ意見であり、厳密に言語ではない別のテーマであれば、時には意見の一致にさえ至る。

La Vanguardia, 10/03/1994: “Firmeza española”, España.

- (30) Es allí donde crece y se hace ese vino precioso al que han dado el nombre de rancio; *se le considera como uno de los mejores y más famosos* de España.

あそこで成長し、古めかしい名前が付いたその素晴らしいワインが作られた。それはスペインで最高で最も有名なワインの一つとみなされている。

Plasencia, Pedro; Villalón, Tecló (1994) *Manual de los vinos de España*, España.

- (31) - ¿*Se considera un director estrella*?

- Yo no tengo ninguno de los elementos que tienen las estrellas, pero *se me considera una estrella*.

「自分をスター監督だと思っていますか？」

「私はスターが持っている要素を何も持っていません。しかし、私はスターだとみなされています。」

Tiempo, 29/01/1990: “Pedro Almodóvar/el director de “ATAME”, España.

(31) のように、*como* が使われていない例もあるのだが、先ほども述べたように補語が名詞の場合、その多くが *como* をとる¹⁰⁾。この *como* は *por* に替えることはできない。

(30') * *Se le considera por uno de los mejores*. 最高のものの一つとみなされている。

(31') * *Se me considera por una estrella*. 私はスターであるとみなされている。

このように、何らかの証拠に基づき何かを「みなす」行為には *por* ではなく *como* の使用がより適切であることがわかる。同様に *juzgar* (判断する) も補語を導く前置詞として *por* ではなく *como* を用いる。

- (32) Las juzga *como* componentes de la producción artística formando un cuerpo afín entre sí.
 (それらの芸術作品を) 彼は類似した集団を形成している芸術作品の構成要素であるとみなしている。

Susperregui, José Manuel (2000) *Fundamentos de la fotografía*, España.

- (33) Yo debo ser juzgado *como* un capitán enviado por España a las Indias para conquistar un pueblo numeroso y guerrero.

私は規模が大きく好戦的な部族を征服するためスペインからインディアスに送られた指揮官としてみなされなければならない。

Vizcaíno Casas, Fernando (1987) *Isabel, camisa vieja*, España.

- (34) Curiosamente, ninguno de estos científicos lo juzgó *como* inferior a su propio grupo étnico.

興味深いことに、これらの科学者の誰もが(その部族を)彼ら自身のエスニックグループより劣っているとはみなさなかった。

Sabadell, Miguel Ángel (2003) *El hombre que calumnió a los monos*, España.

もちろん、上記の文の *como* を *por* に替えることはできない(「～として」という意味において)。

(32') * Las juzga por componentes de la producción artística.

(33') * Yo debo ser juzgado por un capitán.

(34') * Ninguno de estos científicos lo juzgó por inferior.

ラテン語の *judicare* (判断する, 判決を下す) から派生した *juzgar* は英語の *judge* にも対応しており、本来は裁判などで使われる用語である。それ相応の根拠に基づき「判断」していることが前提のため、*por* ではなく *como* が使われるのであろう。

3.6. *ver* + (*como*) 名詞・形容詞・(副詞)

ver は「見る」という意味でよく使われる動詞であるが、「みなす」という意味を表す場合には補語と目的語を取る。英語でも「*see* + 目的語 + *as* + 補語」の構文でこれとほぼ同じ意味を表す。まず、各辞書で定義について見てみよう。

DRAE: “considerar que algo o alguien es o está de una manera determinada.”

「事物や人がある特定の状態や性質であるとみなされること。」

例文: Tal como está, lo veo bien. だから、私はそれがいいと思う。

GDLE: “juzgar a una persona o cosa.”

「人や事物を判断すること。」

例文: Yo eso lo veo ridículo. 私はそれを馬鹿げていると思う。

SALA: “considerar una persona a una persona o una cosa de una manera.”

「人が人や事物をある見方で判断すること。」

例文: Yo no lo veo tan mal. 私は彼をそんなに悪くは思わない。

これまで見てきた「みなす」を表す構文とほぼ同じような定義がなされている。補語として使われる語はどうだろうか。主に形容詞と名詞が使われている。

形容詞:

contento (満足した)	enfermo (病気の)	normal (当然の)
desentrenado (練習不足の)	fácil (簡単な)	peligroso (危険な)
diferente (異なる)	firme (しっかりした)	posible (可能な)
difícil (難しい)	guapo (ハンサムな)	serio (真面目な)
distante (距離のある)	malo (悪い)	tenso (張りつめた)
elegante (エレガントな)	nervioso (神経質な)	etc.

名詞:

algo (何か)	escuela (学校)	pareja (カップル)
alguien (誰か)	figura (人物)	persona (人)
amenaza (脅し)	funcionario (公務員)	presidente (大統領, 社長)
candidato (候補者)	líder (リーダー)	problema (問題)
compañero (仲間)	maestro (教師, 名人)	sistema (システム)
conjunto (集まり)	mecánico (技術者)	tragedia (悲劇)
error (誤り)	obstáculo (障害)	etc.

補語として使われている形容詞を見ると、価値判断を表す形容詞だけでなく、enfermo (病気の) や guapo (ハンサムな) のような形容詞も使われている。名詞は、職業や場所だけでなく problema (問題), amenaza (脅し), tragedia (悲劇) なども使われており、非常に多様である。これらの ver で使われている補語は、形容詞、名詞ともに considerar とはかなり異なることがわかる。

実例を確認すると、前節の considerar と同様に補語を導く前置詞として como が使われている。その場合、補語が名詞句であることが多い。

- (35) Usted la ve *como* una niña. Pero ya es una mujer.

あなたは彼女を子どもだと思っている。でも、すでに立派な女性です。

Cossa, Roberto (1985) *Los compadritos*, Argentina.

- (36) Un 48 por ciento de la opinión pública cree que ha resultado negativo. Y sólo un 24 por ciento lo ve *como* algo bueno.

一般の意見の48%が（北米自由貿易協定は）不利な結果になっていると思っている。そして24%だけがそれを良いことであるとみなしている。

Revista Hoy 15-22/09/1997 “FAST TRACK”, Chile.

前述の *considerar* と同様、形容詞が補語の場合も *como* を使うことがあるが (37)、一般的に形容詞の場合には *como* の使用頻度は非常に少ない (38)。

- (37) Ninguna persona sensata la ve *como* teóricamente factible.

分別のある人であれば誰でもそれ（再選）が理論的に実現可能だとはみなさない。

El Siglo, 28/05/1997: “¿De qué hablarían?”, Panamá.

- (38) Joaquín ve *factible* este objetivo, pero sabe que puede depender de muchos factores.

ホアキンはこの目的を実現可能であるとみなしているが、様々な要素次第であることも分かっている。

Federación de Asociaciones de Minusválidos Físicos de la Comunidad de Madrid 14, 04/2001:

“Revista de información sobre discapacidad”, España.

そして、また *considerar* と同様、*como* を *por* に置きかえることはできない。

- (35') * Usted la ve por una niña

- (36') * Un 24 por ciento lo ve por algo bueno.

- (37') * Ninguna persona sensata la ve por teóricamente factible.

もともと *ver* は「見る」「会う」を意味する動詞で、対象を直接知覚する機能がある。そこから意味的に派生した「みなす」を表す構文には「過ち」を許容するような前置詞 *por* との共起は容認されないと考えられる。

このように、*considerar* と *ver* は *como* の使用など構造上非常に似ている特徴を示すことがわかった。しかし、使われている補語の種類を観察すると、*considerar* は「一番の～」「第一人者の～」のように目的語の存在価値を補語によって強調するようときに使われる構文であり、一方で、*ver* はそのような強調はなく、比較的多様な補語を選択できる構文であるこ

が確認できた。

3.7. *creer* + 形容詞・名詞

最後に, *creer* を使った「みなす」表現について扱う。*creer* は「思う」「信じる」などを意味する動詞で, 目的語と補語をその下位範疇に取ることで「みなす」という意味の構文となる。では, 各辞書の定義から見てみよう。

DRAE: “pensar o suponer que una persona o una cosa es de una determinada manera.”

「ある人や事柄に特定の性質があることを推察すること。」

例文: Te creía enferma. 君が病気だと思っていた。

GDLE: “atribuir mentalmente a alguien o algo una determinada característica.”

「人や物事にある特徴があると思うこと。」

例文: No la creía tan simpática. 彼女がそんなに感じがよいとは思っていなかった。

SALA: “considerar una persona que otra persona es de cierta manera.”

「ある人が他のだれかに何らかの性質があるとみなすこと。」

例文: Yo creo sincera a Antonia, aunque sé que tienes dudas. 私はアントニアが誠実だと思いが, 君が疑っていることは分かっている。

意味の定義に関してはこれまで見てきた構文と特に変わらない。では, 使われている補語について見てみよう。形容詞は数が多いので人と事物に分けた。

形容詞 (人):

astuto (抜け目ない)	lejano (遠い)	serio (真面目な)
capaz (能力がある)	listo (賢い)	simpático (感じがよい)
democrático (民主的な)	macho (男らしい)	sordo (聾啞の)
español (スペイン人)	machote (男らしい)	valiente (勇敢な),
guapo (ハンサムな)	perspicaz (洞察力のある)	etc.
inteligente (賢い)	positivo (積極的な)	
latinoamericano (ラテンアメリカの)	sabihondo (学者ぶった)	

形容詞 (事物):

afín (関係のある)	importante (重要な)	probable (可能性のある)
civilizado (洗練された)	interesante (興味深い)	recio (強い)
complicado (複雑な)	minoritario (少数派の)	seguro (確かな)

conveniente (都合がよい)	necesario (必要な)	útil (役立つ)
difícil (難しい)	oportuno (好都合の)	verosímil (本当の)
efectivo (効果的な)	peligroso (危険な)	viable (実現可能の)
frecuente (頻繁な)	posible (可能な)	etc.

名詞：

campesino (農民) solterón (独身者) imbécil (愚か者) chaval (若者), etc.

前節の *ver* と同様に様々な形容詞が使われている。価値判断を表すものだけでなく、人やモノの性質まで多種多様である。名詞は非常に数が少なく、あまり見つけることができなかった。では、実例を見てみよう。(38) と (39) は形容詞が使われて例、(40) には名詞が使われている。

(38) UGT *cree difícil* un acuerdo de negociación colectiva con la patronal CEOE.

「UGT (労働組合) は CEOE (経団連) との団体交渉で意見の一致を見るのは非常に困難であると思っている。」

Diario de Areúsa, 17/11/2002: “Afirma que la negativa de la patronal dificultará la negociación cole”, España.

(39) La primera y la tercera posibilidad no las *creo muy probable*.

「私は、一番目と三番目の可能性はあまり公算が高いとは思えない。」

El país, 13/09/1977: “cumbre”, España.

(40) Yo le aseguro que no lo *creo un imbécil*.

「私は彼を間抜けであるとは思わないことをあなたに断言する。」

Chavarría, Daniel (2001) *El rojo en la pluma del loro*, Uruguay.

ver と *crear* との明確な違いは補語の前に *como* などの前置詞を取らないことである。形容詞だけでなく、名詞の前にも *como* や *por* をつけることはできない。

(38)* UGT cree como (por) difícil un acuerdo de negociación colectiva.

(39)* No las creo como (por) muy probable.

(40)* No lo creo como (por) un imbécil.

なぜ *crear* だけが *como* や *por* の前置詞を取らないのか。3.5. 節の *considerar* の箇所でも述べたように、*como* の使用は *aproximativo* (概算的な), *atenuativo* (緩衝的) 効果がある。*considerar*

は「何らかの根拠に基づき」AをBとみなし、さらに補語には最上級が多く使われることから *como* という緩衝役を使うことで補語の際立て具合を緩和しているのだと考えられる。一方で、*creer* は、構文としてそのような特徴はなく、*creer* 自体が「思う」「信じる」のような命題への断定を避ける認識様態のモダリティ (*modalidad epistémica*) を持っていることから、*como* のような緩衝役の前置詞はそもそも必要ない。むしろ前置詞をつけることで余剰的 (*redundante*) となり、文法的に容認不可能となってしまうと考えられる。

4. *por* と *como* の違いについて

「みなす」構文には「として」を意味する前置詞 *como* と *por* がある。*por* は「間違っ」て」みなされる可能性のある場合や *dar por* のように現実に完了した行為でなくとも完了したとみなす場合などに使われていた。一方で *como* は何らかの根拠に基づき A を B とみなす場合や、価値判断や原理、原則などの形容詞が使われた場合などに使われていた。でなぜはこのような選択の違いが生じるのだろうか。*por* と *como* の使い分けは、*por* の「代理・代替・代価」(『西和中辞典』:1578, 『中級スペイン文法』:164) という語義と *como* の前置詞的用法である「比喩・類似・比較」(『西和中辞典』:486, 『中級スペイン文法』:282-283) という「として」以外のそれぞれの語義にヒントがありそうだ。

すでに2章で示したように、*por* も *como* も「として」を意味した場合、辞書での記述上違いは見られないのだが、*por* にはそのほかに *Ella vino por su hijo*. (彼女は息子の代わりに来た。) のように代わりとして全く別人 (モノ) を提示する用法があり、*como* には *Lo quería como a mi padre*. (私は彼を父親のように愛していた。) のように直喩的な用法がある。前置詞の基本語義を決定するのは難しいが、*por* には「代替」の概念が「間違っ」て」みなしに、*como* には直喩の概念が「根拠に基づいた」みなしに関連していると考えられる。

通時的な用法の変遷はどうだろうか¹¹⁾。*por* の語源であるラテン語の *pro* は「～の代わりに」「～として」という現代スペイン語と同様の語義がある。ラテン語の *habere* は「みなす」を意味する場合には、*alqd pro certo habere* (あることを確実であるとみなす) のように *pro* を用いる。一方で、*como* の語源であるラテン語の *quomodo* は「～のように」という語義はあるが、「～として」という前置詞的用法はない。つまり、*como* の「として」という語義は後の時代にできたものである。もともとラテン語で前置詞の *pro* が *habere* などの「みなす」を意味する動詞とともに使われおり、後のスペイン語でも *tener* や *dar* とともに *por* が使われ続けてきた。しかし、あるときから直喩を表す *como* に、*considerar* などの動詞とともに「～として」という新たな語義が加わっていったのではないか。実際、コーパスで確認すると、*considerar* が *como* と数多く使われ始めたのは18世紀の前半からである。それまでは数は少ないものの *considerar* は *por* とともに使われることもあったようである (もちろん現代スペイン語では容認されない)。

(41) *Pide porque pide a padre, desiste porque se considera por mal hijo.*

「汝は要求する，神に要求しているから，汝は拒む，悪い子であるとみなされるから。」

San Juan Bautista de la Concepción (Juan García López) (1609–1610)

La oración de petición, España.

5. まとめ

以上のように，7種類の「みなす」に対応するスペイン語の構文を見てきた。大きく分けて前置詞 *por* を取る構文，*como* を取る構文，前置詞を取らない構文の3つ視点から構文を概観することもできる。7種類の構文は，*pasar por* を除き，「主語＋動詞＋目的語＋(*por*, *como*)＋補語」という共通の構造を成しているが，前置詞の使用だけでなく，特に，補語の多様性に関して独自の特徴を個々の構文で示していた。

tomar por の補語は無冠詞の修飾句のない名詞で，構文自体に「間違っ」て」という解釈が含まれている。*pasar por* の補語は修飾句つきで冠詞がある。構文自体には「間違っ」て」のような意味はないが，語用論的にそのような解釈になることもある。*tener por* (*como*) は規範や原理原則の補語が多く，*por* だけでなく *como* も使用可能である。*dar por* はこの7種類の構文の中では異色で補語に過去分詞を取る。過去分詞は完了相の動詞が使われ，状態相など完了相のない動詞(述語)は使えないなどの使用制限がある。一方で，価値判断などを表す形容詞も補語として可能で，その場合には *como* も容認可能である。

considerar は最も広く日本人学習者に使われている「みなす」に相当する構文であるが，そのプロトタイプ的使用は補語に最上級またはそれに類似した名詞が使われることである。そのため，構文内で目的語の存在価値を補語により取り立てて強調することが多く，補語の前に *como* を置くことで緩衝的な役割を与えている。*ver* は前置詞として *como* を使い，構造的には *considerar* とほぼ同じではあるが，使われる補語は非常に多様で *considerar* に見られる特徴的な使用はない。

creer は前置詞を全く取らないという点でこれまでの構文とは異なる。補語は専ら形容詞が使われ，その使用に制限などはない。*creer* 自体が可能性や蓋然性などに関わる認識様態のモダリティを有していることから，*como* のような緩衝的な役割を持つ前置詞の使用が余剰となる。

por と *como* の使用の違いは「として」以外の語義と関連しているようである。*por* では「代替」の概念が実際とは異なる人やモノ，コトの判断に作用し，*como* では直喩の概念が「根拠に基づく」評価や判断に作用している。

本論は，「みなす」に対応するスペイン語の表現が多くあり，その違いを十分に学生に提示できなかった忸怩たる思いがその出発点にあった。本論により，日本人学習者が「みなす」に

相当するスペイン語の構文を使う際、問題となる語彙の選択や注意点、さらに教員として指導する際の疑問点などがある程度解消されたことを期待する。

注

- 1) このような構造の構文を叙述補語構文 (construcción de complemento predicativo) と呼ぶが、本論ではその中でも日本語の「みなす」に対応する構文を対象とする。
- 2) 本論では como は前置詞として扱っているが接続詞や副詞とみなす考え方もある。『現代スペイン語辞典』は接続詞、『小学館西和中辞典』では副詞という扱いである。『小学館西和中辞典』ではその範疇を副詞としながらも「前置詞的に」という記述がある。
- 3) コーパスへのアクセス最終日は2015年11月22日である。
Mark Davies: <http://www.corpusdelespanol.org/x.asp>
CREA, CORDE: <http://corpus.rae.es/creanet.html>
- 4) tomar は como も使えるのだが、その場合「人を～(間違っ)みなす」ではなく、以下の例のように「ある事柄や人を～(実際に)とする」という解釈になる。
La tomamos *como* un modelo. 私たちは彼女を手本(モデル)にする。
さらに、コーパスで確認するとその補語の9割以上が base (基礎), punto de partida (出発点), referencia (参考) などになっている。
Si tomamos *como* referencia los resultados del domingo pasado, ... もし先週の日曜日の結果を参考とするなら, ……
この点に関しては por と como の違いを明確にしている3章と4章で詳細に論じる。
- 5) 下線は筆者。
- 6) pasar por は他の構文とは違い por の後に ser を取る頻度が非常に高い。他の構文も ser を取ることがあるが、非常にまれである。Nueva gramática de la lengua española Sintaxis II, p.2889 では dar por, tomar por は ser の使用が非文となっている。
- 7) 西和辞典では『現代スペイン語辞典』の pasar の項目に「[実際と違って, +porとして] 通る, みなされる」とある。
- 8) 実際の集計結果は por norma (26), como norma (12), por escenario (52), como escenario (147), por objeto (750), como objeto (162)。norma は por の方が多く, escenario は como が多く, objeto は por の方が多かった。いずれにしても、コーパスでは数多くの実例を確認することができた。
- 9) 下線は筆者。
- 10) (31) の文に como をつけることももちろん可能である。
Se me considera como una estrella.
- 11) ラテン語の語義と例文は『LEXICON LATINO-JAPONIUM Editio Emendata』を参考にした。

参考文献

- Demonte, V. y Masullo, P. (1999) “La predicación: los complementos predicativos”, en Bosque, I. y Demonte, V. (dirs.), *Gramática descriptiva de la lengua española*, Madrid, Espasa Calpe, pp. 2461–2524.
- Fernández López, María del Carmen (1999) *Las preposiciones en español: valores y usos. Construcciones preposicionales*, Madrid, Colegio de España.
- García Fernández, L. (2006) *Diccionario de perífrasis verbales*, Madrid, Gredos.
- Gómez Torrego, L. (1988) *Perífrasis verbales. Sintaxis, semántica y estilística*, Madrid, Arco/Libros.
- Real academia española (2009) *Nueva gramática de la lengua española, Sintaxis II*, Madrid, Espasa Libros.
- 高橋覚二 (1998) 『スペイン語表現ハンドブック』白水社。
- Yllera, A. (1999) “Perífrasis verbales de gerundio y participio”, en Bosque, I. y Demonte, V. (dirs.), *Gramática descriptiva de la lengua española*, Madrid, Espasa Calpe, pp. 3391–3441.

和西辞典

- 宮城昇他（編）（2000）『和西辞典』（改訂版）白水社。
 C. ルビオ・上田博人（他）（2004）編『クラウン和西辞典』三省堂。
 小池和美（編）（2014）『小学館和西辞典』小学館。

西和辞典

- 宮城昇・山田善郎（編）（1999）『現代スペイン語辞典』（改訂版）白水社。
 原誠・E. コントレーラス他（編）（2005）『クラウン西和辞典』三省堂。
 高垣敏博（編）（2007）『小学館西和中辞典』（第2版）小学館。

西西辞典

- Real Academia Española (2014) *Diccionario de la lengua española*, vigesimotercera edición, Barcelona, Espasa Libros.
 Real Academia Española (2005) *Diccionario panhispánico de dudas*, Bogotá, Santillana Ediciones Generales.
Gran diccionario de la lengua española (2012) Larousse.
 Gutiérrez Cuadrado, Juan (dir.) (1996) *Diccionario SALAMANCA de la lengua española*, Madrid, Santillana.

羅和辞典

- 水谷智洋（編）（2013）『LEXICON LATINO-JAPONIUM Editio Emendata』研究社。

About the Spanish constructions equivalent to “MINASU” in Japanese

Yukio SHIMODA

Abstract

This study analyzes various Spanish expressions equivalent to “MINASU” (*consider*) in Japanese from the practical and operational aspects, and is to present various examples for verifying the different uses of each expressions (*tomar por, tener por, pasar por, dar por, considerar como, ver, creer*). Even though there are a lot of expressions of Spanish corresponding to the Japanese “MINASU” likewise English, and its way of use is more complex than English, there have been no study that was comprehensive and detailed analysis about it so far. In this paper, we elaborate on the use of the constructions while showing some actual examples from the Spanish corpus with a detailed description of the constructions, which correspond to “MINASU” in Japanese focusing on the practical usage. And this study has focused also on how to use the prepositions *por* and *como* from the semantic point of view.

Keywords: Spanish, MINASU, construction, corpus, prepositions